

●小学校●
生活科

生活科の「活動や体験についての思考・表現」の評価は「具体的な活動や体験について、自分なりに考えたり、工夫したりして、それをすなおに表現する」という観点から行うことになった。そこで「活動や体験についての思考・表現」の評価にはどのような評価方法が考えられるか。また、第一学年と第二学年における評価の観点を明らかにし、とくに評価にあたって慎重な配慮が必要な事柄については、その留意点を記す。

「自分なりに」「すなおに」が基準

生活科の中心は、いうまでもなく活動や体験。その具体的な活動や体験一つひとつを実践する過程において、子どもが示す多様な姿勢や変化（成長）をどのようにとらえる（評価する）か。これが「活動や体験についての思考・表現」という観点の意図である。

ところで、今回の指導要録の改善における教科全体の評価の観点は、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現（または技能）」「知識・理解」の四点である。生活科の場合、「関心・意欲・態度」はそのままで、「知識・理解」が「気付き」に変わり、「思考・判断」「技能・表現」は、

「活動や体験についての思考・表現」とあるように、「思考」と「表現」のみ取りあげられている。このことは重要である。生活科の評価の対象は、子ども一人ひとりが、それぞれの活動や体験において、どのように「思考」し「表現」しているかである。「判断」や「技能」自体ではなく、その「基盤」を育むことが課題といえよう。

すなわち、「観点」の「趣旨」が示すように、子ども一人ひとりが「具体的な活動や体験」において精一杯「考え」たり「工夫」すること自体が大事なのであり、内容（判断）の優劣が問題ではない。また、その結果をその子なりにいかに「表現」するかが課題であり、表現の方法（技

能）が問題ではない。

さらに、評価の基準は、「自分なりに」、あるいは「すなおに」である。他の子どもたちとの比較や、一定の客観的な共通尺度に基づくものではない。あくまで子ども一人ひとりの内的な基準に基づいて、評価はなされなければならないわけである。

評定が廃された意義は大きい。

そこで、このような趣旨に基づき、評価の方法としては、次の三つを提示したい。

- ① 観る。
- ② 参加する。
- ③ 表現されたものを解釈する（子どもの自己評価や相互評価も含む）。

「観る」評価の課題

「自分なりに」と「すなおに」が評価の基準である以上、活動や体験の「過程」で子どもが「考え」たり「工夫」している姿を、子ども一人ひとりに即して、可能な限り詳細に「観る」ことから評価は始まると考える。

その際の課題は四つ。一つは、授業のなかで展開される活動や体験の内容をどれだけ事前に教師が「予測」できるか。二つは、活動や体験に取り組む前の子どもの「実態」をどれだけ詳細に把握しているか。三つは、「五感」すべてを教師が使えるか。四つは、「仲間とのかかわり」をどれだけ見取ることができるか。

詳細な観察は、漠然と見ることから生まれない。視点が明確でなければならぬ。ただし、重要なのは、教師の予測と実際の子どもの現れとの「差異」の把握。この差がその子どもなりの「考え」や「工夫」である。

ただし、子どもは五感すべてを使って活動するはず。それをとらえるには、五感が必要になるのは当然。だが、口で教

えることに慣れた者には、最も困難な課題かもしれない。

他方、子どもは一人で活動するわけではない。無視。真似る。学びとる。教える。教わる。けんかする。このような仲間とかかわる過程で「自分なり」が現れる。ここに家庭や地域ではなく、学校で学ぶ生活科の意義があると考える。

さらに、一学年から二学年への変化で、最も重視すべき基準が、この仲間とかかわり方であることも指摘しておきたい。

「参加する」表現を解釈する「課題」

そして、このかわりのなかに教師が自ら入っていくことが、②の「参加する」ことによる評価である。ともに活動する過程で聞き取る子どもの何気ないつぶやき。質問や示唆に応じた子どもの変化。教師は、教えることに臆病であってはならない。ただし、問題はそのタイミング。子どもの「考え」や「工夫」を引き出せるヒントでなければ無意味である。

③の「表現を解釈する」課題は一つ。一つは、表現する手段を問わないこと。絵・文字・記号・制作物とさまざまな表現

る。大事なものは、その表現がどのような必然性に基づいているか、その子なりの「考え」や「工夫」との関係である。これが「すなおに」の基準と考える。二つは、自己評価や相互評価にその子なりの表現をどこまで読み取れるか。どのように自分や仲間を評価するかに、子どもの内面の最も「すなおな」現れがあると考えられる。

記録の積み重ねが重要

なお、生活科の評価は一時間単位ではできない。①・②・③いずれの方法も、子ども一人ひとりの記録の積み重ねが重要。従来の、全員を用紙一枚で表す座席表や、チェックリストでは不可能である。自由に増やし、差し替え、書き加えられるカードやファイルのような形式が「考え」られる。当然、記入の仕方、文字・絵・記号と多様に「工夫」すべきである。また、評価の前提となる子ども把握の方法の開発が急務である。

谷川彰英「連載・子どもをとらえる技術」〔現代教育科学〕明治図書が参考になることを紹介しておく。

教職研修 目次

●巻頭論文 生涯学習と大学	東京外国語大学 原 卓也 11
●教育の断面 校則と自律心の育て方	大竹秀一 16
新しい教育を求めて 対応が迫られる教育の情報化	前文部省初等中等教育局長 菱村幸彦 22

★新教育法令カード 文部省総務課・9	★学校診断カード 学校経営診断研究会・7
★校長会／教頭会・今月の活動 織井道雄／中西 朗／小林泰雄／山本隆也・20	★文教ニュース 杉森 洋・14
★校長会／教頭会・今月の活動 織井道雄／中西 朗／小林泰雄／山本隆也・20	★文教ニュース 杉森 洋・14

管理・法規	文部省特殊教育課 渡辺淳平 26
例解・教育管理の基礎知識	文部省婦人教育課 鈴木優子 151
教育部事務問題の法的考察・23	若井祐次／文部省婦人教育課 鈴木優子 151
設例学校経営法規セミナー・3 教科書を使わない授業	上越教育大学助教授 若井彌一 151
	筑波大学教授 下村哲夫 156

連続特集 新指導要録と評価の改善150ポイント(2)

34 静岡大学助教授 広瀬節夫 32	55 佐賀大学助教授 撫尾知信 76
35 東京学芸大学助教授 三浦軍三 35	56 練馬区立旭丘中学校校長 高山昌之 78
36 国立教育研究所センター長 澤田利夫 38	57 東京学芸大学助教授 葉養正明 80
37 横浜国立大学助教授 大村 高 40	58 世田谷区立希望丘中学校校長 木山高美 82
38 電気通信大学助教授 滝沢武久 42	59 大阪教育大学助教授 木下繁彌 84
39 静岡大学助教授 馬居政幸 44	60 文教大学助教授 仙崎 武 86
40 東京音楽大学助教授 大和淳二 46	61 岡山大学助教授 岸田元美 88
41 武蔵野音楽大学助教授 浜野政雄 48	62 徳島文理大学助教授 高旗正人 90
42 山形大学助教授 藤原義久 50	63 東京学芸大学助教授 岸 学 92
43 横浜国立大学助教授 茂木一衛 52	64 早稲田大学助教授 坂野雄二 94
44 東京学芸大学助教授 西園芳信 54	65 常葉学園大学助教授 落合幸子 96
45 筑波大学助教授 宮脇 理 56	66 明治学院大学助教授 中西信男 98

46 千葉大学助教授 藤澤英昭 58	67 東京学芸大学助教授 野田一郎 100
47 金沢大学助教授 向坂一弥 60	68 中央学院大学助教授 瀬戸 仁 102
48 十文字学園女子短期大学助教授 林 健造 62	69 福岡市教委主席指導主事 陣川桂三 104
49 兵庫教育大学名誉教授 西光寺 亨 64	70 広島大学助教授 吉田裕久 106
50 上智大学助教授 加藤幸次 66	71 福岡教育大学助教授 大西道雄 108
51 武庫川女子大学助教授 梶原康史 68	72 奈良教育大学助教授 増田信一 110
52 成城大学助教授 岡本奎六 70	73 宇都宮大学助教授 佐藤照雄 112
53 福山大学助教授 河合伊六 72	74 秋田大学助教授 堀井登志喜 114
54 岩手大学講師 藤岡秀樹 74	

●教育理念	日本教育新聞編集局長 有 園 格 116
教育現場からの提言・口 現代に生きる教師像への変容を	前京都府公立高等学校校長会長 北村 晋 120
教育の論議 病いは誰にも公平に訪れる	信州大学助教授 山口恒夫 131
教育改革の課題・46 中教審の審議・私の感想	国立教育研究所教育政策研究部長 市川昭午 134
●教育経営	高橋静男／牧 昌見 142
マネジメント・マインドの醸成・76 40代・50代のヒビ割れの調整	宮城県教育庁指導課長 安藤 忠 142
都道府県・指定都市 教育の課題・6 宮城県	
●教育内容・方法	九州大学助教授 弘中和彦 144
海外の教育・インド 「仕事経験」の重視と統合カリキュラム	小泉秀夫／池田伊三郎 147
特色ある実践・特色ある学校・6 柔軟な教育課程・教育方法の追求	日本教育新聞編集局長 有 園 格 147
事例開かれた学校づくりへの挑戦・17 生涯学習と学校対応の実態	
★速報！4年度教育管理職選考問題	前東京都公立小学校校長 平井文雄 160
学校経営10の重要課題	

★8月の校務カレンダー

四天王寺国際仏教大学教授 荻堂盛治／亜細亜大学教授 平沢 茂

- ▷ 3年度夏季教育管理職研修会開催の案内……123
- ▷ 平成3年版「別冊教職研修」刊行の案内……124
- ▷ 最新刊研修図書案内……126
- ▷ 好評教育法規研修図書の案内……127
- ▷ 「小学校新展開シリーズ」(全3冊)の案内……128
- ▷ 全訂新版「教職ハンドブック」(全4冊)の案内……129
- ▷ 「ニッポン・コリア読本」刊行の案内……130
- ▷ 好評研修図書一覧……180
- ▷ 「新指導要録(幼・小・中・高)全文と要点解説」……折込
- ▷ 総合特集「学校教務読本」刊行の案内……折込

□今月のポイント概念□

教育改革推進関係会議……15	教育目標の「不易」と「流行」／学校教育目標……169
指導要録／観点別学習状況……171	教員の地位に関する勧告／専門職……173
専修免許状／特別免許状……175	

★最新刊・好評発売中！

教育の道 教育の庭

兵庫教育大学長 上寺久雄著 B6判/350頁/2400円

生涯学習と行政の役割

日本教育行政学会編 A5判/390頁/3500円

新展開シリーズ《全3冊》

①生活科の新展開 ②小学校中学年理科の新展開

③小学校高学年理科の新展開

文部省教科調査官 奥井智久編著 各B5判/260頁/2600円

新・生涯教育と学校教育

お茶の水女子大学教授 森 隆夫著 A5判/410頁/3800円

刊行10周年 記念版



大好評配本中！！

■新指導要領下・2300頁を全面大改訂！！

■記念版大普及 教委・校長室・大学研究室必携！！

教育管理総覧

文部省教育管理研究会編 代表 鈴木 勲 日本育英会理事長

理念・制度／教委・学校／組織・運営／児童・生徒／教育内容・方法／生徒指導・進路指導／保健・安全・給食／教職員／施設・設備／財政の全領域にわたる。800論点を文部省見解により整然と解題。判例・事例等の参照資料も完備し、教育実践にあわせて活用できる便利さに定評あり。希望者のみ年1回(12月)、加除(3,000円以内)を行う。

★希望者のみ年1回加除(12月)3,000円以内

定価・13,000円(税別)
A5判/2,300頁

教育開発研究所 TEL. 3815-7041 FAX. 3816-2488